

## (公財)日本中体連における『リベロリプレイスメント』の変更についての付則

中体連では、『リベロプレーヤーシステム』の取り扱いについて、2004年度に付則を作成し採用、その後、2017年度の全国大会からは、一般と同様の『リベロリプレイスメント』を採用してきました。

このような中、中体連の各種大会では、生徒役員がアシスタントスコアラーを行うことが多いことから、チェックミスを防止するため、リベロと相対する競技者は、必ずサイドライン上で片手を高く挙げ、つま先を揃え、一旦立ち止まる(つま先をそろえる)ように指導を継続してきたところです。

一方で、中体連の取り扱いについてもより一般に近づけることが望ましいとの観点から、試験的に一般と同様のリベロリプレイスメントを生徒役員により実施したところ、スムーズにゲーム運営がなされ、特に問題はありませんでした。

そこで、2023年度の愛媛全中よりJVAの取り扱いと一部同様とします。

このことから、本規則委員会において「付則」を一部修正・整理し、配付することとしました。

### 1. 試合開始前の手続き

#### (1) スコアシートに関して

監督は、試合開始前、スコアシートに記載される選手の中からリベロを指名し、その番号をスコアシートのリベロの欄に記入し、サインをする。

(リベロは、試合ごとに変更することができる。)

①中体連では、1チームにつき最大限12名までの登録ができる。その12名のうちリベロとしての登録は0・1・2名のいずれかをチームが選択する権利を持っている。

②スコアラーは、チーム登録として記載した12名の選手名にしたがって、監督から指名されたリベロの名前を転記する。その際、12名の選手名は消さない。

#### (2) リベロの服装に関して

リベロは、チームの他の選手と対照的な色のユニフォーム(ユニフォームのデザインは異なっていてよい)、または、ビブス(ゼッケンのようなもの:このビブスは、高さ15cm以上の「L」の文字をつける)を着用しなければならない。

また、リベロが2名いる場合は、他のチームメンバーと同様に、2名が異なった番号を付けるか、『ビブス』の色を変える必要がある。

#### ① 対照的なユニフォーム

⇒対照的とは「互いに対立する2つの要素がきわだつこと」であり、色の明るさに関係している。

※例えば、正規の選手のユニフォームの袖が黒、胸背部が白とした場合、リベロのそれが、袖が白で胸背部が黒というものは対照的とは言えず、認められない。

②チームのユニフォームに関して、認められる例。できれば、1)か3)が望ましい。

※正規のメンバーを1番～10番、リベロ2名が11番と12番とした場合。

- 1) 正規のメンバーが白、リベロ2名が赤。
- 2) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤、リベロ12番が紺。
- 3) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤のビブス、リベロ12番が青色のビブス。
- 4) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤、リベロ12番が青色のビブス。

③リベロがビブスを使用する場合、公式練習が終了してからビブスを着用する。  
⇒公式練習中に、レフェリーが登録されたメンバーの番号を確認するため

(3) アシスタントスコアラー及びリベロコントロールシートに関して

- ①中体連では、アシスタントスコアラーを生徒役員が務める場合、2名の生徒役員で各チーム担当を決め、リベロチェックを行うこととする。
- ②リベロコントロールシートは、生徒役員がチェックしやすい、中体連独自で作成したものを使用する。(日本中体連バレーボール競技部ホームページに掲載)

## 2. 試合中

(1) リベロの交代する場所について

リベロおよびリベロと交代する選手は、リプレイメントゾーン(チームのベンチ前のアタックラインとエンドラインの間のサイドライン)からコートに出入りする。

①アシスタントスコアラーを生徒が行うことから、リベロリプレイメントが行われる際、交代する選手を分かりやすくするために、交代する2名がサイドライン上ですれ違うように指導する。その際、交代する選手同士が、手を挙げたり、つま先を揃えて一旦立ち止まったりする必要はない。

⇒\*コート上の選手が5名になったり7名になったりしないよう指導する。

\*指導後も繰り返される場合でも、罰則は与えず指導する。

\*エンドラインからの交代などの場合も指導する。

②試合開始前、ラインアップシート確認の際には、交代するリベロのみがリベロリプレイメントゾーンで待機していてもよい。

(2) 適用される罰則について

リベロは、ラリーの完了から次のサービス許可のホイッスルの前までに交代しなければならない。(サービス許可のホイッスル後に交代することは、拒否されないが口頭で注意される。同一試合中に繰り返した場合は、遅延の行為に対する罰則の対象となる。)

①不法なリベロリプレイメントが、サービス許可の吹笛後からサービスのヒット前までに発見された場合

⇒レフェリーより正しく直され、チームには遅延の行為に対する罰則が適用される。この時のリベロリプレイメントは認められない。ただし、リベロがポジション4に残らなければいけない場合は、リベロプレイメントは認められる。

②サービス許可のホイッスル後、サービスのヒット前にリベロの交代が行われた場合

⇒そのラリー終了後、当該チームのゲームキャプテンを審判台の下に呼び、口頭で注意する。その際「サービス許可のホイッスル後のリベロの交代は、遅延行為となる。この試合で再び繰り返せば『遅延の行為に対する罰則』を与えることになる」旨を伝える。

③サービスの実行後にリベロの交代が行われた場合

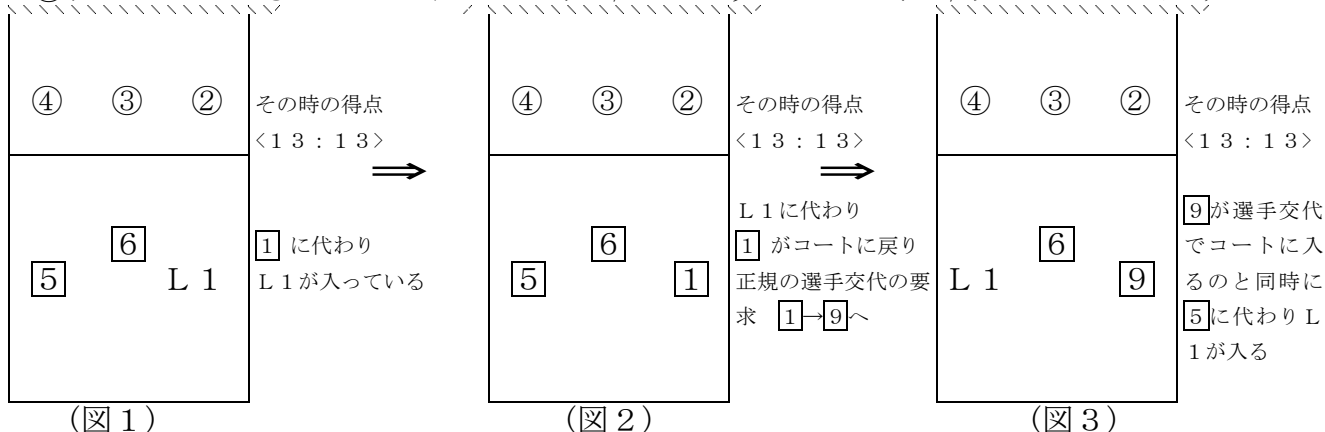
⇒ポジションに関する反則を適用する。

(3) リベロの交代でよく起こる反則となるケースについて

リベロと他の選手との交代の間には、1つのラリーが完了していなければならない。リベロがコートから出るときは、入れ替わった選手（またはリベロが2人いる場合はもうひとりのリベロ）とのみ交代することができる。

- ① 1つのラリー完了とは、どちらかのチームが得点を得ることが条件である。  
 ⇒ダブルフォルト（ノーカウント）や、試合の中断（選手交代やタイムアウトなど）はラリーの完了ではない。

② ケース<1> ○：フロントプレーヤー/□：バックプレーヤー/リベロ：L1だけ



\* 13 : 13の時点で、既に①に代わりリベロ1がコート内にいる。 (図1)

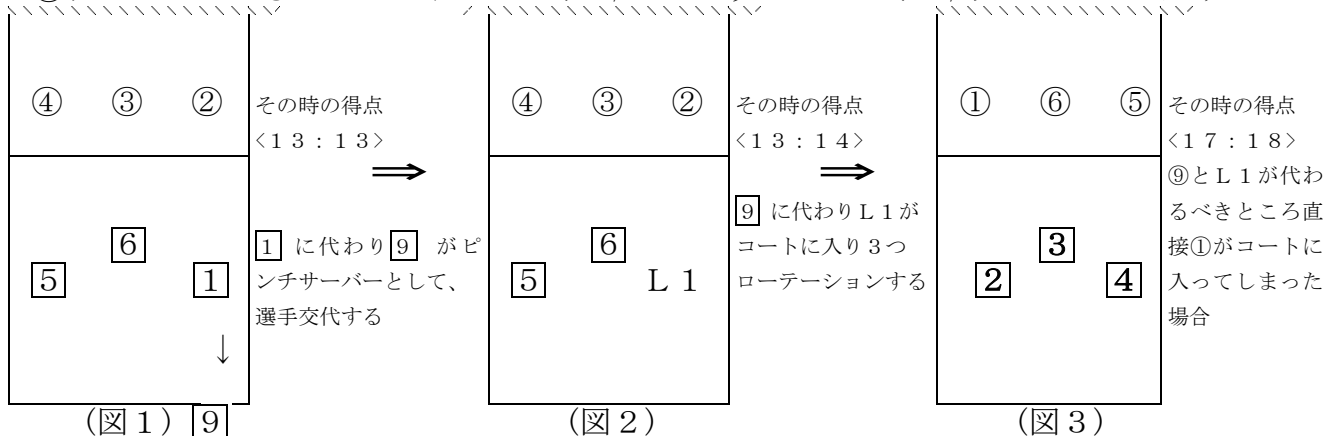
\* ①に代えて⑨をコート内に入れたいためにリベロ1と①を再び代える。 (図2)

\* 13 : 13の同一中断中に①に代えて⑨の選手交代を要求すると同時に⑤に代えてリベロ1がコート内に再び入る (図3)

<処置の仕方> 原則：リベロの反則はチームの責任である。

- i) アシスタントスコアラーまたは1st・2ndレフェリーが発見した場合は、それを指摘し、遅延の罰則が適用される。
- ii) レフェリー団が発見できず、サービスの実行後に発覚した場合は、ポジションに関する反則として処置する。
- iii) レフェリー団が発見できず、セットが終了した場合は、何の反則も適用しない。

③ ケース<2> ○：フロントプレーヤー/□：バックプレーヤー/リベロ：L1だけ



<処置の仕方> 原則：リベロの反則はチームの責任である。

- i) アシスタントスコアラーまたは1st・2ndレフェリーが発見した場合は、それを指摘し、遅延の罰則が適用される。
- ii) レフェリー団が発見できず、サービスの実行後に発覚した場合は、ポジションに関する反則として処置する。
- iii) レフェリー団が発見できず、ローテーションが繰り返され⑨がサーバーとなるべきところで、①がサーバーに出てきて、スコアシートから発覚した場合は、規則7.7.1・2に則り、罰則を適用する。